令和４年度第４回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会概要

〇日　　時：令和４年９月11日（金）17時30分～19時00分

〇場　　所：大阪府咲州庁舎23階　中会議室

〇出席委員：清水会長、阿多委員、田島委員、玉置委員、南雲委員、三木委員（リモート）

〇事務局　：府民文化部副理事　ほか

Ⅰ　開会

Ⅱ　議題

**○議題　大阪府日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた新たな将来ビジョンの策定について**

（資料に基づいて事務局から説明）

（清水会長）資料２の「新たな将来ビジョンに盛り込む視点」の「②多様性への対応」は前回から全体的に変更しているのか。

（事務局）大阪万博の理念を基に、多様な人々がそれぞれ理解し認め合う場として、公園が多様なニーズに対応していくとしている。これが、目標と基本方針①につながる視点となっている。

（玉置委員）前回、「新しい観光」「観光DX」について、いろいろとお話させていただいた。このような表現でまとめてもらったので、文言について問題はない。他の各先生のご意見についても、今回の答申案で問題はないのではないか。

資料３の22ページの「アクションプランの作成及びKPIの設定」は重要であるということである。細かく書き込んでいないため自由度があり、なおかつ何をやるかはここにかかっている。「新しい観光」は、入場者数だけで計るものではないということが重要である。分かり易いものでは客単価という指標があるが、いわゆるコミュニケーションや発信など、利用者の公園に関するさまざまな感想など、これまで測れなかったものを、DXで捉えていく。数だけでなく活性化していること、みんなに愛されていることがわかることが、重要なKPIだと思う。それに基づいて、アクションプランが決まってくる。

答申案で私が気に入っているのは、最後に注釈がついている。答申でこのようなものがあるのは珍しいので、面白い答申になるのではないかと思う。

（田島委員）わかりやすいものになっているかという視点を重視して読んだが、これで十分であると思う。

万博公園は域外からの交流人口を増やしていこうとしている公園の位置づけなので、資料２の目標③に「文化・スポーツ拠点の形成」とあるが、「観光および文化・スポーツ」にするなど、「観光」という言葉が入ったほうが良いのかとスポーツ分野の立場から思う。

（清水会長）「域外から」というのは非常に大事であり、資料３の基本方針③にも「国内外から観光客を含む」という文言を入れているが、少し弱いと感じている。

（南雲委員）海外旅行者が来ても、太陽の塔を見て写真を撮って15分程度で帰ることがあって、これが観光なのかと疑問があったので、大事な部分だと思いながら話を聞いていた。継続して公園に来てもらうことが大事であると思う。5年ごとのアクションプランの中で、もう少し具体的な話ができれば良い。

公園の近くに住んでいる地元住民として、委員の皆様に、どのような観光が一番効果的なのか、是非教えていただきたいと思う。

（清水会長）今までの観光のあり方を変えていこうと皆考えていると思うので、期待していきたい。また、審議会においてもこれから案を出していきたいと思う。

（三木委員）よくまとまっている。概ねこれで良いと思う。細かい話だが、資料３の18ページにあるゾーニングについて、各エリアが重ならずに見やすくなっているが、夢の池の部分はイサムノグチの彫刻などもある東側だけでも構わないので、レガシーゾーンに含めたほうがいいのではないか。彫刻の噴水部分を再生させるのは不可能かもしれないが、池の区画は変わっておらず、形も残っている。池の設計が肝だったところでもあるので、含めたほうが良いと思う。

観光の議論で、今の万博公園が、観光での役割を果たしているかは微妙である。遺跡などのように、観光案内をしてくれるボランティアガイドがないことも、観光感がないと感じる原因であると思うので、今後やってみてもいいと思う。1970年以降にできた、里山のような森がどういう森なのかを紹介してくれるガイドもいたら良い。将来的に観光的な側面を強くしていくのであれば、ガイドの養成も必要になってくると思う。

（南雲委員）夢の池は、サイクルボートなど子ども達が乗るようなアクティブな場所でもある。その辺りの線引きが難しい。

（三木委員）今のように交わらないゾーニング図ではなく、アクティブゾーンとレガシーゾーンが重なる部分もある。表現が難しいが、池の部分に両方のゾーニングがかかるような図であってもいいのではないか。

（玉置委員）注釈を入れるのはどうか。

（事務局）資料３の18ページに、「なお、このゾーニングは取組みが行われる場所を制限する趣旨ではないため、」と注釈を記載している。明確な区別ではなく、ここはこういった趣旨で使われることが多いということを表している。

（三木委員）それであれば、このままでもいいように思う。用途としてどちらが多いかということかと思う。

（玉置委員）前回の大まかなゾーニングより、今回のゾーニングの方が間違いなく良い。

　（事務局）池の部分のゾーニングについては検討する。

（清水会長）ボランティアについては、指定管理者評価委員会でも話が出ており、いろいろなアイデアが出ているので、アクションプランにも落としていきたい。

（阿多委員）わかり易く整理してもらったと思う。

資料３の22ページのロードマップで短期は「文化・観光拠点」、中期は「文化・スポーツ拠点」、長期は「スポーツ・文化拠点」となっているが、あえて統一していないのか。

（事務局）ロードマップについて、短期の文言は「都市魅力創造戦略2025」の表現を参考にしている。中期は、あのエリア全体を文化・スポーツ拠点の形成として位置付けており、長期ではアリーナとの相乗効果を目指している。そのため順番が異なっている。表現は検討する。

（阿多委員）これまで議論してきた目標と基本方針に則って、ロードマップがある。この部分だけ唐突に違うソースを元に記載があり、今までの議論から飛躍があるように思う。文化・観光拠点の形成を記載するのであれば、前に触れておくべきである。

（事務局）　資料３の14ページに、参考として「大阪都市魅力戦略2025」を載せている。社会状況の変化ではないが、踏まえるべき要素の一つである。この中で、「世界第一級の文化・観光拠点の『進化・発信』」の記載がある。それを踏まえて、ロードマップに記載していると考えている。

（玉置委員）阿多委員からの指摘で気がついたが、短期の「世界第一級の文化・観光拠点の進化・発信」も引用であれば、鉤括弧で表現するべき。中期が両方の引用と関係がないのであれば、短期が「文化・観光拠点」、後期が「スポーツ・文化の拠点」であることを踏まえて、「文化・スポーツ・観光の拠点」としてはどうか。

（事務局）表現は少し検討したい。

（清水会長）何か修正が必要である。注釈をつけるなどをしたほうが良い。

（阿多委員）アクションプランを作る際に、ロードマップを検討することになると思うので、そのときに整理すれば良いのではないか。

（事務局）いただいた意見を踏まえ検討する。

（清水会長）欠席の山田委員からコメントをいただいているので紹介する。

（事務局より、山田委員のコメントを紹介）

（清水会長）いろいろな視点での観光の考え方がある。公園が観光の中の資源の一つであると考えれば、観光は重要になる。観光を狭くとれば、公園の中の観光者という見方になる。どこの視点から見るかでだいぶ変わる。

審議会からの答申については、会長に一任いただき、事務局と私で、まとめても良いか。

（一同）異議なし。

Ⅲ　閉会

（答申後のスケジュールを説明）

以上